

全体では国内観光客が大幅に減少しているわけではない

京都を訪れる国内観光客の推移を、時系列で表したところ
観光客数は一貫して減り続けているわけではないことが分かりました。



POINT 1

一時的に減少するものの回復へ

2021年から2022年にかけては、コロナ禍による観光支援施策の影響もあり、観光客数は増加しました。しかし、2023年以降は横ばいからやや減少に転じ、2024年には減少幅が拡大します。その後、2025年春頃からは再び増加に転じ、現在は回復傾向にあります。



POINT 2

観光客の居住地によって傾向が異なる

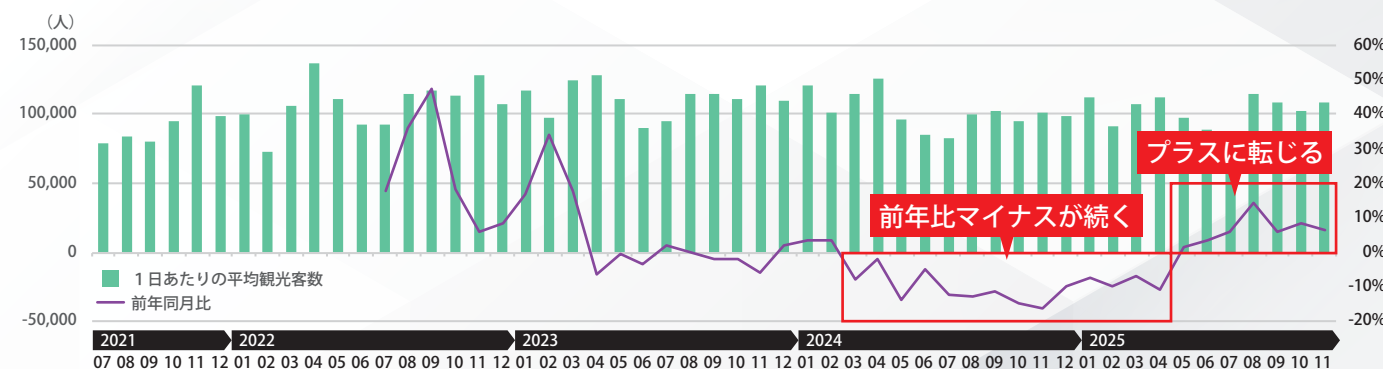
観光客の居住地別に推移を見ると、特徴的な違いも見られました。

- 首都圏からの観光客：減少傾向が顕著
- 近畿圏からの観光客：減少は軽微で比較的横ばい

遠方からの来訪が落ち込む一方、近隣からの来訪は底堅く推移しています。



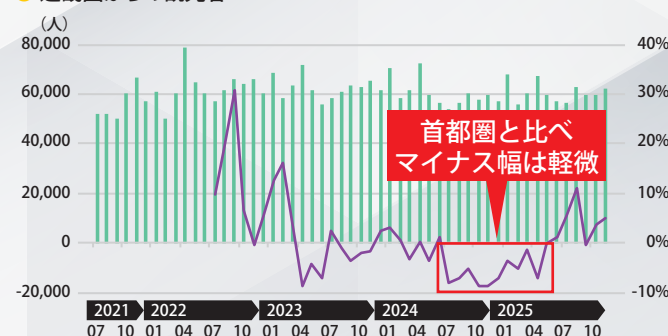
国内観光客数（1日平均）の推移



● 首都圏からの観光客



● 近畿圏からの観光客



人流データで読み解く 京都観光の現在地



— 京都を訪れる国内観光客は本当に減っているのか？ —

近年、京都では外国人観光客が増加する一方で、「国内からの観光客が減っているのではないか」との声もあります。そこで、京都商工会議所は携帯電話事業者であるソフトバンク、データ分析分野で高い評価を受ける長崎大学と共同で人流調査を実施しました。その結果、見えてきたのは、「観光客が減った」のではなく、「訪れ方が変わっている」という可能性です。

データが示す3つの傾向

1

全体では国内観光客が大幅に減少しているわけではない

2024年には減少が見られたものの、2025年に入ると回復傾向に転じています。

2

行き先が「分散」している？

嵐山や清水寺等の主要観光地への来訪者が減少する一方で、京都駅周辺では大きく増加しています。

3

観光客の居住地によって動きが異なる

首都圏からの来訪は減少が目立つ一方、近畿圏からの来訪は比較的安定しています。

今回の調査では、携帯電話の位置情報*を4つの区分に分類し、京都市が居住地や通勤通学先でない人々を「象限C推定人口」と称し、その動向を分析しました。

(以下、本記事ではこの定義による人々を「観光客」と表記します)
※分析においては個人が特定されないように統計処理を行っています

	京都市に 常住	京都市以外に 常住
京都市に通勤通学	A	B
京都市以外に通勤通学	D	C

観光客
(象限C推定人口)

本特集では、このデータをもとに、3つの傾向について、グラフをもとに読み解いていきます。



傾向 3

観光客の居住地によって動きが異なる



観光客の行動は、居住地によって異なる特徴を持っていることが明らかになりました。
一方で、主要観光地における混雑の発生タイミングには、共通点が見られます。

POINT 1

観光客の居住地で行動パターンは異なる

首都圏からの観光客は、

- 朝に京都駅へ到着し、夜に京都駅周辺に戻る
- 日中に遠方の観光地から巡り、夕方にアクセスの良い地点（四条烏丸・四条河原町等）に戻ってくる

といった行動が中心です。

近畿圏からの観光客は、

- 日帰り観光の傾向を示し、朝のピークがない
- 四条烏丸・四条河原町は昼間時間帯に訪問するという傾向が見られます。



POINT 2

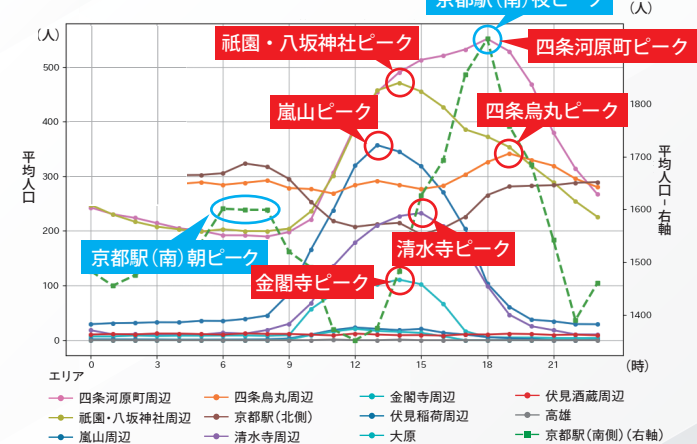
それでもピークは重なる

このように行動パターンは異なるものの、嵐山・清水寺・祇園等の主要観光地では、いずれも13時～15時頃にピークが集中していることが分かります。

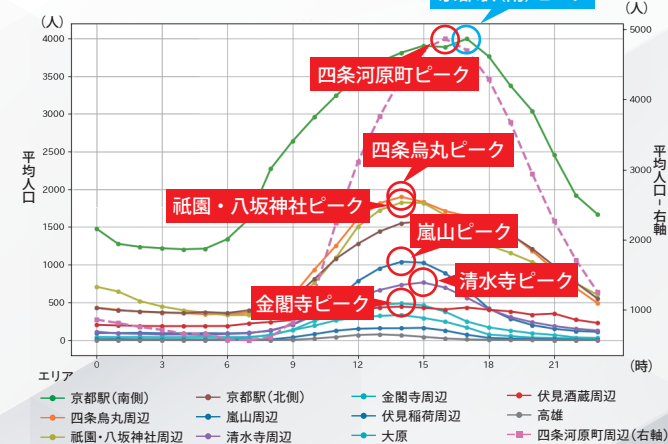


■ 時間帯別に見た主要地点の観光客数

● 首都圏からの観光客 (2025年平均)



● 近畿圏からの観光客 (2025年平均)



傾向 2

行き先が「分散」している？



ヒートマップによる分析では、
エリア別の訪問人口に経年で変化が生じています。

POINT 1

主要観光地は減少傾向

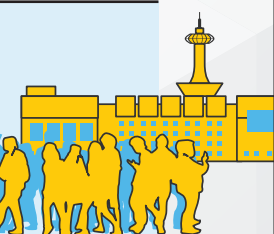
嵐山や清水寺周辺等の主要観光地では、来訪者数が減少しています。



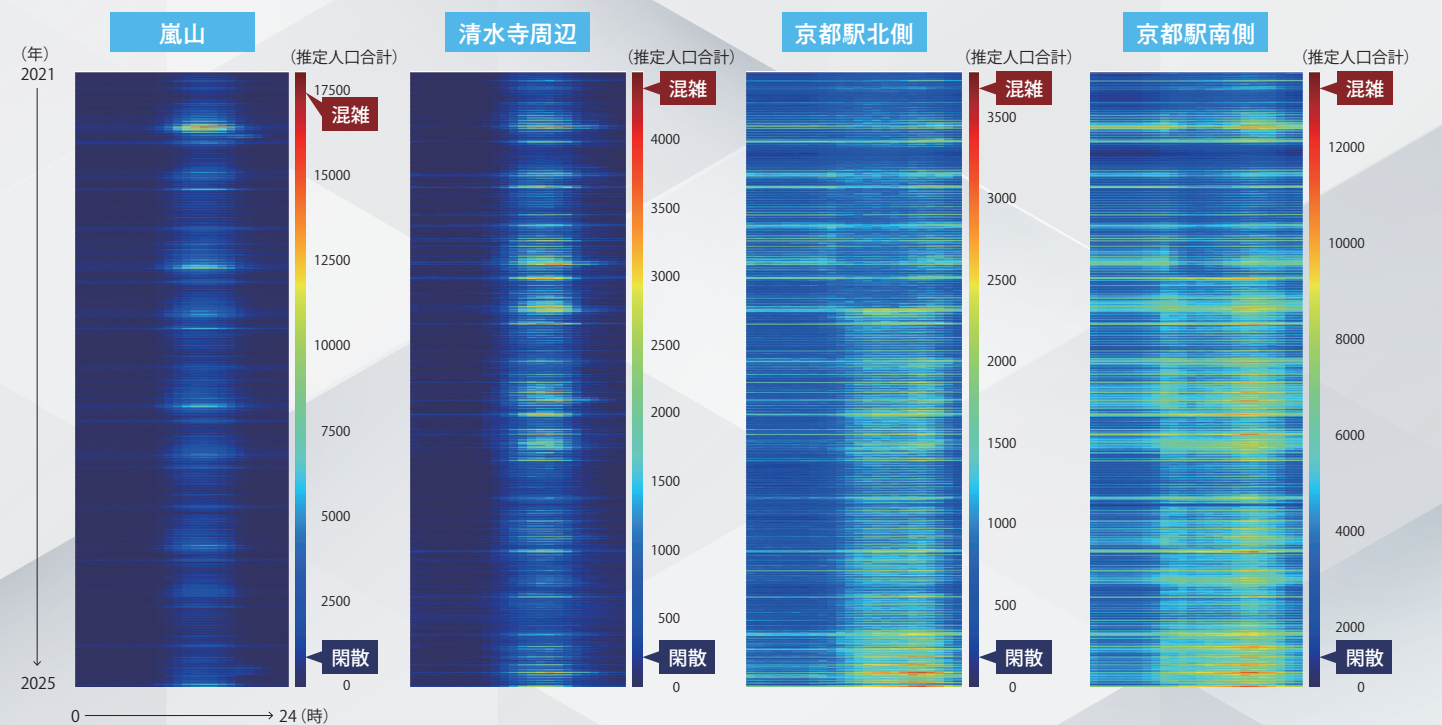
POINT 2

京都駅周辺は増加

一方で、京都駅周辺では来訪者が増加しています。観光客は京都に訪れなくなったのではなく、訪問先が分散・変化していると考えられます。



■ エリア別の国内観光客数の変化



今回の分析から、京都観光の現状について、いくつかの視点が見えてきました。

- 国内観光客の「京都離れ」は限定的で、現在は回復基調にある
- 観光スタイルは「分散」型へ移行しているのではない
- 一方で主要観光地の混雑は特定の時間帯に集中している

これからの
京都観光を
どう捉えるか



今後の展開に向けて

京都商工会議所では引き続き調査を行い、周遊ルートや観光パターンの提案、交通課題の整理・対策の検討等、データ分析を通して持続可能な観光のあり方を探っていきます。